

「尊厳学」の確立：尊厳概念に基づく社会統合の学際的パラダイムの構築に向けて

領域代表者	梶山女学園大学・国際コミュニケーション学部・教授	研究者番号:90183780
	加藤 泰史（かとう やすし）	
研究領域情報	領域番号：23A103	研究期間：2023年度～2027年度
	キーワード：人間の尊厳、生命の尊厳、東アジアの尊厳概念、尊厳死、価値論	

なぜこの研究を行おうと思ったのか（研究の背景・目的）

●研究の全体像

本領域研究は、**新たな社会統合の理念として「尊厳」概念を鍛え上げるために、学際的・国際的な学術研究の場として、「尊厳学」を確立することを目的としている。**

第一段階：現代社会が抱える諸問題を「尊厳」や「尊厳の毀損」という枠組で理解



図1 尊厳と社会問題の関わり

●2度の世界大戦が巨大なカストロフィを引き起こしたことを受けて、そうした惨劇を繰り返さないために「国連憲章」などに、「人間の尊厳」が**国際秩序・社会秩序を支える理念として採用された。**

●「尊厳の毀損」の観点から先端医療や高齢者介護、女性や障害者に対する差別、貧困や格差の問題、移民・難民の受け入れやヘイトスピーチ、生成AI・ビッグデータといった、**現代社会の抱える社会問題を新たに発見する。**

●動物やAI・ロボット、自然など「人間以外の存在に尊厳があるかどうか」といった問題も問われるようになっていく。

第二段階：尊厳研究から多様な学術分野に理論的な枠組を提供

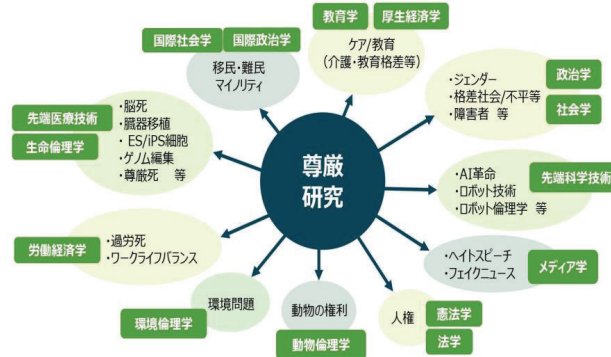


図2 尊厳研究と学術分野の関わり

第一段階と第二段階は、いずれも「個別的」で「対処療法的」な非包括的取組であるので、**「尊厳」に基づいてさまざまな問題を論じるため、「尊厳学」という新たな学問領域が必要！**

第三段階：「尊厳」という新たな社会統合の理念の学として「尊厳学」を確立

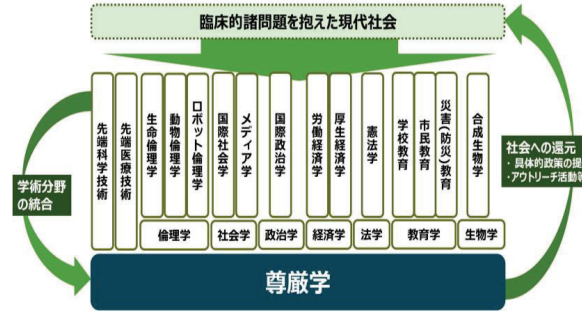


図3 尊厳学の確立

●コロナ禍において、多くの人々が**将来の社会のあり方に不安をいだいており、「尊厳」への関心も高まっている。**

●新たな社会統合の理念として「尊厳」概念を確かなものとし、社会実装するために、**「尊厳学」という新たな学術の場を創設する。**

●これまで個別に論じられていた問題を学術横断的に「尊厳」の観点から研究することで橋渡しし、今まで見過ごされていた問題を洗い出す。さらに、その研究成果を市民講座や学校教育、介護などの現場へと還元する。

この研究によって何をどこまで明らかにしようとしているのか

- 「尊厳」についての「**理論的・概念的**」研究と「**臨床応用的**」研究を互に関連させながら並行して進めることによって、**包括的な「尊厳」理解を構築すると同時に、現代社会の様々な問題を解決する。**
- これらの研究成果に基づいて、**学校教育や市民教育への提言を実施し、「尊厳」の「社会実装」**を遂行する。

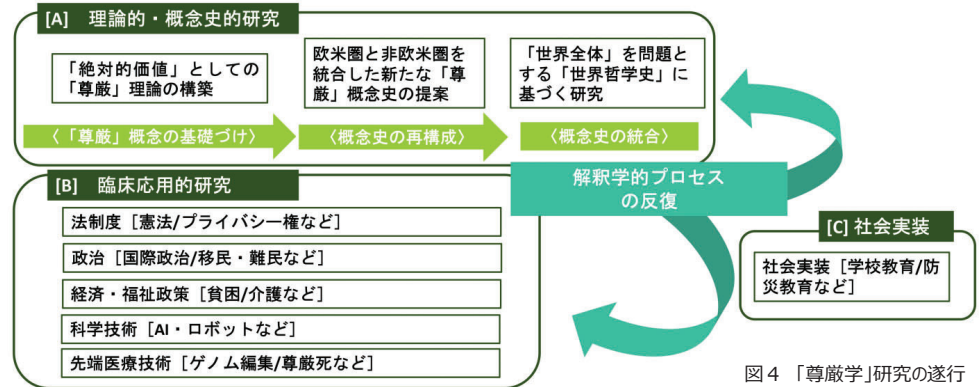


図4 「尊厳学」研究の遂行

●研究成果の発信
「尊厳」をめぐる思想や具体的提言、分析等をまとめた論文集（英語版やドイツ語版も含む）を国内外で公刊する。

●「尊厳」研究のための国際学会の設立
「尊厳学」研究の国際的な展開のために、「国際尊厳学協会（International Society of Dignity Studies）」を設立する。

●「尊厳」の社会実装
学校カリキュラム（災害教育を含む）の提案や市民講座の開設を行うと同時に、新科目「公共」に関する具体的提言を行う。